

実践編

第5章 「社会性の学習」の指導の実際 28

1 中学部第一学年「社会性の学習」の指導例（指導案と解説）

2 中学部第三学年「社会性の学習」の指導例（指導案と解説）

第6章 活動例 40

<資料>

これまで作成・配布した自閉症教育推進の関係資料 教育庁指導部

第5章 「社会性の学習」の指導の実際

1 中学部第一学年 「社会性の学習」指導の例

1、題材名 「頼まれたものを買ってこよう ～御用学習を用いて～」

課題① 他者の意図の受け入れ

課題② コンビニエンスストアの買い物

課題③ 依頼・買物・報告時におけるやり取り

課題④ 買い物の意味・機能理解

2、学級の実態と題材設定の理由

本学級は男子4名・女子2名からなる自閉症学級であり、6名中3名が本校小学部自閉症学級から、1名が本校小学部普通学級から、2名が学区にある特別支援学級（固定級）からの進学である。認知・言語発達については「太田ステージ」と「NCプログラム」を、社会性の発達については「S-M社会生活能力検査」と「TTAP」を実施した。アセスメントの結果から、全ての生徒において、自分の要求を伝えたり実行したりする能力はあるが、他者の要求を受け入れたり実行したりすることに関して許容の幅が狭く、経験も少ないということがいえた。

生徒たちが現在そして将来、地域の中で、自分らしく暮らしていくためには、中学生という生活年齢に応じた対人関係や場面に応じたソーシャルスキルを地域や社会の中で実際に身に付けていく必要があり、社会性の学習では、教室での学習を、家庭や地域へ般化していけるような取組が大切であると考えた。

そこで、御用学習を用いて、他者の要求や意見を受け入れ実行することによって、自分にとっても良い結果が起こることが学習できるよう、この題材を設定した。また、中学部以降ますます必要となる、学校（職場）・家庭・地域社会における役割や使命を持った行動を身につけることや依頼・買物・報告時における言葉のやり取りもこの題材で指導できると考えた。

地域における生活の充実に向けて、地域の店舗における買い物スキルの指導を取り上げる。「コンビニエンスストアの利用」において、支援ツールを使用した買い物の実行を通して『ソーシャルスキルの指導』を行っていく。加えて、「依頼・買物・報告時の態度」等、社会的マナーとしての『ソーシャルスキルの指導』も行っていく。

この題材を通して、生徒が「買い物の意味や機能」の理解をし、目的をもった買い物をを行い、そこにある楽しみを実感できるようにしていきたいと考える。

取り組むにあたり課題となったのが、生徒に対して保護者のニーズや期待感が弱いことである。都立の知的障害特別支援学校に通う生徒の家庭は、生活環境・家庭環境・家族構成・金銭への価値感など様々である。TTAP 及び生活の仕方の調査を行った結果、家庭生活や地域生活に関わることを生徒にさせていない家庭も複数存在することが分かった。学校での学習をどのように家庭に般化していくかが、本題材の大きなポイントともいえる。そこで、授業を通して生徒の変容を見せることで、家庭の意識や取組みを変えていければと願い、保護者と教材を共有化し、学校と家庭が協力しながら進める授業展開とした。


解説

<本学級における日々の取組>

「生徒向け」 スケジュールや手順表の利用、タイムタイマーの使用、教室環境の整備など構造化を行い、自分で手掛かりを見つけられる、自分で動けるようにしています。学校生活全般において、人とやり取りをしなければならない状況を多数作り、指導の機会を設けています。伝えたいことを上手く伝えられるよう、生徒の困った場面を細かく捉え、MTとSTが連携して指導をします。生徒の得意なことをうまく活用し、係や手伝いなど、役割をもった活動場面を多く設定しています。刺激に過剰に反応してしまう生徒には、イヤーマフやパーティションの使用を行い、落ち着いて学習できるようにしています。

「保護者向け」クラス便りを発行し、自閉症の障害特性の説明、ものの見え方や捉え方の違い、生活上の困難性などを伝えています。家庭でできる構造化の紹介や、学校での取組を家庭に生かすためのアドバイスも行っています。本題材についてのねらいの説明や協力依頼等も、クラス便りを通して行いました。

<お金の学習との関連>

本題材実施時期に、国語・数学でお金の学習を取り上げました。金種の弁別ができていないか、お金の実物・表記・音声のマッチングができていないか、金種を組み合わせて扱えるか、どのような方法であれば支払ができるか等、実際に店舗で支払うなら、という視点で指導を行いました。200円と書かれたものを見て、本学級では4名が100円玉2枚を支払え、2名は分からないため支払えないということが分かり、その2名については社会性の学習では絵でと示すことにしました。

<小学部の社会性の学習との関連>

6名中3名は小学部時代も社会性の学習を行っていました。今年度当初、その3名は他の3名と比べ、列に並ぶことや必要な手掛かりを探すことが上手でした。またパターン的ではあるものの、「どうぞ」→「ありがとう」等のやり取りも定着していました。小学部での社会性の学習の成果と言えると思います。

<本指導案で使用したアセスメントと本学級の生徒の実態>

- ①「太田ステージ」…自閉症児の認知発達治療のため開発されたアセスメントです。認知発達の側面から、表象機能の発達を捉えます。本学級は、Ⅲ-1が2名、Ⅲ-2が2名、Ⅳが2名です。Ⅲ-1は表象が明確に認められる段階、Ⅲ-2は概念形成の芽生え段階、Ⅳは基本的な概念形成がされた段階です。
- ②「NCプログラム」…視覚操作、言語、記録、文字、数、運動のアセスメントで、評価法と指導法がワンセットになっています。これによると、本学級は6名とも平仮名の読み書きができ、平仮名で書かれた単語も見て理解できています。また言語指示も、簡単なものであれば全員が理解できています。
- ③「S-M社会生活能力検査」…六つの領域別に社会生活年齢と社会生活指数が算出でき、そのプロフィールから子どもの姿を捉えることができます。本学級は、移動が2歳4か月～6歳6か月、集団参加が2歳2か月～4歳2か月、自己統制が2歳9か月～7歳4か月という幅があります。指導案には下位項目の有効活用ができました。
- ④「TTAP」…AAPEPに実際の現場での作業体験を加えたものです。3尺度6領域で構成されますが、指導案には本単元に関わる3尺度4領域のデータを記載します。直接検査尺度においては、6名とも簡単な質問であれば自分なりに考え答えを言うことができ、生徒から教師へ言語での要求表出もあります。学校尺度と家庭尺度の比較では、同じ項目においてばつきのある生徒が多く、指導場面から別場面への般化がなされていないことが分かります。領域別に見ると、対人行動領域で合格が格段に少なくなる生徒がおり、対人関係の指導の必要性が読み取れます。

3、生徒の実態と目標 *6名中4名を抜粋記載

		A	B	C	D
太田ステージ		Ⅲ-1	Ⅳ	Ⅲ-2	Ⅲ-1
S-M 社会 生活 能力 検査	身辺自立	7歳0か月	6歳6か月	7歳0か月	7歳0か月
	移動	2歳4か月	6歳6か月	5歳7か月	2歳11か月
	作業	8歳0か月	5歳1か月	8歳9か月	5歳10か月
	意思交換	3歳9か月	4歳9か月	4歳9か月	3歳9か月
	集団参加	2歳2か月	4歳2か月	4歳9か月	3歳7か月
	自己統制	2歳9か月	7歳4か月	6歳10か月	4歳3か月

注) *各項目において、発達年齢が一番高い生徒をオレンジ、一番低い生徒を黄色で表した。
*個人内で発達年齢が一番高い項目を太字、一番低い項目を斜字で表した。

TTAP		A	B	C	D
自立 余暇 コミ 対人	自立	直 5 2 5	直 9 1 2	直 4 6 2	直 2 6 4
		家 3 5 4	家 3 6 3	家 4 3 5	家 1 4 7
		学 3 5 4	学 1 6 5	学 4 5 3	学 2 6 4
	余暇	直 5 2 5	直 7 3 2	直 7 1 4	直 5 3 4
		家 3 5 4	家 4 5 3	家 3 8 1	家 2 6 4
		学 3 5 4	学 2 7 3	学 4 7 1	学 3 6 3
	コミ	直 2 4 6	直 3 7 2	直 2 6 4	直 3 5 4
		家 1 8 3	家 9 3 0	家 0 10 2	家 1 8 2
		学 5 6 1	学 4 7 1	学 6 4 2	学 6 5 1
	対人	直 2 2 8	直 3 7 2	直 4 6 2	直 3 6 3
		家 1 3 8	家 5 7 0	家 3 7 2	家 0 3 9
		学 0 2 10	学 1 5 6	学 0 6 6	学 0 5 7

注) 自立:自立機能、余暇:余暇スキル、コミ:機能的コミュニケーション、対人:対人行動
直:直接観察尺度、家:家庭尺度、学:学校尺度
合格:合格、芽生え:芽生え、不合格:不合格

①全体像 ②対人関係 ③ソーシャルスキル	①構造化された環境下での個人作業はよくできる。しかし集団の中に入ると様々な聴覚・視覚刺激に反応し、奇声・離席が頻繁になる。 ②簡単な言語でコミュニケーションがとれる。要求・拒否ともはっきりできる。情緒の不安定さや感情表出の不適切さがあり、誤解を招きやすい。 ③家庭内等静かな環境であれば生活能力が発揮できるが、学校や地域の中では刺激が多くなかなか力を出し切れない。突発的な行動が多く、大人の見守りが當時必要である。	①小学3年生程度の学力があるが、生活場面で生かせない。視覚・聴覚刺激に影響され、やるべきことに取り組めないことが多い。自分で気付き行動することに課題がある。視覚的バランスの悪さがある。 ②教師からの関わりには答えられるものの、本生徒から関わりを求めてくることは少ない。困った状況で大人に支援を求めることに課題がある。 ③生活経験不足から、様々な活動に自信のなさが見える。多くの情報から必要なものを取り出すことに困難さがある。	①聴覚過敏や集団学習時における情報取得の苦手さ、エロプラキシア(行動の真似)があり、アセスメントからは読み取れない困難さを抱えている。 ②自分が感じたことを言語表出して伝える力がある。困った状況で大人に支援を求めることに課題がある。苦手な人への恐怖心が強い。 ③周囲の流れにまかせることが多く、自分で考え行動する力が弱かったが、スケジュールやタイムタイマーの導入で改善されてきた。因果関係理解が苦手、感謝や賞賛の理解に課題がある。	①言語表現が豊かだが、コミュニケーションは一面的である。自分の興味関心のある活動への取り組みはよい。自分の意に沿わないと大きな声を出して抵抗する。 ②大人と言語コミュニケーションをとりたがるが、時と場を判断することが難しい。一方、大人からの質問等については拒否が多い。 ③気持ちが幼く、一人でやれる能力はあっても、大人と一緒にやりたいという思いが強く、自信も少ない。大人の期待や感謝を感じ、次の行動に移す力がある。
題材目標を設定するために活用できる現在の様子	スタンプ等のトークンが有効である。手順表等、視覚の手掛かりがあると忠実に活動できることが多い。	手順表の活用が定着しつつある。構造化された環境で繰り返し学習することで、その後の転化が期待できる。	個別の視覚的な手掛かりがあることで、ルールや活動内容などを自ら考え行動に移せる。	大人と一緒にであれば新しい経験もスムーズにできるようになってきた。視覚的な手掛かりの活用が有効である。
題材目標	「買い物メモ」を用いて1人で買い物をを行う。店員との適切なやり取りを学ぶ。買い物後の楽しみや感謝を励みに、落ち着いて学習を行う。	「買い物メモ」から、買い物の流れを知る。教室内の活動で自信をつけ、実際の店舗では教師と一緒に商品が探せるようになる。	「買い物メモ」に従って、1人で買い物をを行う。店員との適切なやり取りを学ぶ。報告の仕方を覚え、報告することで感謝される因果関係を知る。	「買い物メモ」から、買い物における流れと必要な行動を知る。店員との適切なやり取りを学ぶ。

解説

<生活の仕方の調査の実施と活用>

生徒にとって必要な課題、意味のある課題の設定を行うため、日常の中での活用が見込まれる（機能的、実用的、役に立つ）題材設定が望ましいです。そのために生活の仕方の調査を行いました。

「生活の仕方の調査」…生活スタイルの実態、実際の買い物ではどんな店舗をどのくらい利用し、どういう買い方をしているのか、どんな困難性やトラブルを抱えているのかを、保護者に聞き取りをします。以下は実際に聞き取りに使った書式と、保護者から寄せられた内容です。

<生徒と家庭の買い物における実態>

- ・定期的な買い物の機会（1週間当たり）…0回1名、1回1名、2回2名、4回2名
- ・買い方…全員、保護者と一緒に行く
- ・買う物…本人のお菓子、飲み物、DVD等のレンタル、家族の食料 等
- ・支払う人…保護者3名、本人2名（保護者の支援あり）

<買い物における困難性>

- ・レジに並ぶ際、前の人に近付きすぎる。
- ・複数あるレジの空いたところに行くというやり方が分からない。
- ・店員からの口頭での質問に対応できない（レジ袋、箸等があるかどうか、など）。
- ・レジでカゴを渡すと待ってられない。
- ・家族が店内で買い物をしていると、自分の好きなどころへ行ってしまう。
- ・レジの人の要求に応じて、支払いができない。

<インフォーマルアセスメント（ベースラインの調査）の実施>

（本人から買いたい物を聞き、それを手順が書かれた買い物メモに教員が記入。そのメモを使用しコンビニエンスストアで買い物を行った。）

評価項目	生徒A	生徒B	生徒C	生徒D	
説明時	説明中、提示された買い物メモを見ている	○	○	◎	○
買い物時	カゴを自ら手にとることができる	○	×	△	×
	買い物メモと同じ商品を選ぶことができる	◎	○	◎	○
	レジに気づき、移動できる	◎	△	◎	○
	レジに並んで待つことができる	△	×	×	×
	スムーズに支払ができる	○	×	×	×
	おつり・レシート・商品をもらうまで、その場で待っている	○	○	○	○
	渡されたおつりとレシートをスムーズに財布にしまえる	○	○	△	○
帰宅時	買い物メモの通りに運行できる	○	×	×	△
	依頼者に手渡すことができる（自分の物としてしまわない）	○	△	○	△
	手渡すとき、「できました」「どうぞ」等言える	○	×	◎	○
依頼者が確認している間、その場で待っている	◎	△	○	◎	
様子：…本アセスメント時は、 ①買い物メモを用い、買い物することを説明する ②生徒が買いたいアザートを決め、教師が個々の買い物メモに記入する ③買い物メモ（手順表）通りに運行する ④手順ど通りことをしたとき、買い物メモを見せ説明するという流れで行い、評価をした。	立ち着いている状態であれば、普段の買い物経験で身に付けた本人の生活力が発揮できる。列に並ぶイメージがもてていないため、視覚支援がない場所では並ぶことが難しい。	地域における生活経験が少なく、随所で自信のなさや不安がある。社会ルールやマナー等は知らないため、不安定な面がある。本アセスメント中、未払いの商品を自ら入れることがあった。	カゴを取るところが分かりつつも、エコプラケシアにより、他の生徒がカゴを取らなかったことをまねた。支払をせず店を去ろうとした。行動がゆっくりで、レジでの流れに時間がかかる。	買い物が好きな活動であるため、前向きに取り組めた。列のイメージがもてていないため、レジ付近をうろろする。支払をせず店を去ろうとした。	

◎よくできている、そう言える ○まあまあできている、まあまあそう言える △あまりできていない、あまりそう言えない ×まったくできていない、そう言えない

4、指導計画（全23回）

指導段階(回数)	指導内容	生徒への即時評価 ＜買い物メモ＞	指導成果の検証 ＜チェックシート＞
第1段階(6回)	授業の最後に行うお茶会に向け、依頼された買い物を 行う。教室内に擬似店舗を作る。店員はS.T. MTが 「買い物メモ」を作成し生徒に買い物を依頼、生徒は それを見ながら買い物を実行する。生徒は買い物が終 了したらMTに報告をする。MTは感謝の言葉をかけ る。1時間に一人2回買い物をを行う。	報告を受け、教師 が「買い物メモ」 にスタンプを押 す。	教師が書き込む。
第2段階(5回)	第1段階に金銭のやり取りを追加する。		
第3段階 (5+2+5回)	保護者が「買い物メモ」を作成、生徒に依頼をする。 学校近くのコンビニエンスストアにて買い物をし、帰 宅後保護者に報告をする。5回の指導の後、それぞ れの課題について教室で個別指導をする。その後また コンビニエンスストアで指導をする。	報告を受け、保護 者が「買い物メモ」 にサインをする。	教師と保護者が書 き込み共有化する。

5、本時の展開（第3段階4回目）

- ねらい・買い物メモに従って、指定された商品・個数を選択し、買い物をを行う（課題②から）
- ・店員の「△△円になります」に応じて 金額を支払う（課題③から）
 - ・店員の「袋はいりますか」の問いかけに「はい」と答える（課題③から）
 - ・購入したものを家庭で使用することで、依頼された買い物の意味・機能の理解を図る（課題④から）

時間	学習内容	生徒の活動	予想される店員の言葉	指導の観点
家庭で		・当日朝、保護者が生徒に「買い物メモ」を見せ説明をし、買い物を依頼する。 ・「買い物メモ」、財布（お金）、マイバッグ、チェックシートを学校に持ってくる。		
授業前		・学習を始めるため、教室環境を整える（視覚刺激の遮断、学習が始まることの視覚的提示、終了時間の視覚的提示、等）。		
導入	・挨拶	・MTに注目して挨拶をする。		・視線、姿勢等、MTに向いているか。
展開1	・移動	・コンビニエンスストアまで歩いて行 く。		・信号のルールは守れているか。 ・歩道の端を歩いているか。
展開2	・店舗で買 い物をす る	・入口で「買い物メモ」を見る。 ・店に入り、買い物カゴを持つ。 ・商品を探し、カゴに入れる。 ・レジへ進む。 ●「お願いします」 ・財布を開ける。 ●「はい」 ・支払いをする。 ・レシート、おつりを受け取り財布に入 れる。 ・商品を受け取る。 ・店を出る。	●「いらっしゃいませ」 ●「いらっしゃいませ」 ●「袋はいりますか？」 ●「△△円になります」 ●「ありがとうございました」	・マイバッグから「買い物メモ」を取 り出せているか。 ・「買い物メモ」の順番通りに行えて いるか。 ・商品を手にとるとき、「買い物メモ」 の写真及び文章と照合しているか。 ・店員の言葉を聞いているか。 ・店員に対して、返事できているか。 ・店員の要求に応じて、支払っている か。 ・お釣り、レシート、商品等、スム ースに受け取っているか。
※以上を一人ずつ行う。残りの生徒は店外でS.Tと待機する。				
展開3	・移動	・学校（教室）まで歩いて戻る。		・信号のルールは守れているか。 ・歩道の端を歩いているか。
まとめ	・全体確認 ・挨拶	・MTの質問に答える。 ●「□□です」「△個です」「お母さん です」 ・MTに注目して挨拶をする。		・何をいくつ買ったか・誰に渡すのか が理解できているか（生徒の答えを MTが黒板に書き出す）。 ・視線、姿勢等、MTに向いているか。
家庭で		・帰宅後、生徒が保護者に商品、財布、「買い物メモ」を手渡し、報告をする。 ・保護者は確認をし、生徒がその評価を視覚的に理解できるよう「買い物メモ」にサインを入れる。感謝の言葉をかける。 ・「買い物メモ」は生徒がファイルにとじる。 ・購入した商品を飲食または使用する際、確認と感謝の言葉をかける。		

6、授業の成果と期待される効果

授業開始時は記憶に頼って商品をカゴに入れていた生徒たちが、指導を重ねるにしたがい、自ら「買い物メモ」を見て確認をし、レジへと進めるようになった。「買い物メモ」を活用しながらも、店員とのスムーズな支払やレシート等の受け取りができるようになった。カレールーを依頼された生徒が、帰宅・報告後調理中の鍋にそのルーを入れてカレーを完成させ家族で食べたなど、依頼された買い物の意味・機能理解の促進について、家庭が連携・協力をしこの学習に取り組むことができた。初めは自信のなさから買い物に抵抗を示していた生徒が、家族からの「○○買ってきてね」という言葉かけに対し、笑顔で「うん」と答える姿も報告された。手順書の活用、買い物メモの作成方法、支払う金額の示し方、他者からの依頼など、様々な場面への般化が期待できる。

解説

＜教材・教具＞本題材ではオリジナルの教材を何点か使用しています。作成した教材の中から、いくつか御紹介します。

＜第3段階買い物メモ表面＞

12月 12日 月曜日

ごはんですよ！ を 120

買ってきてください。

1	お店
2	かご
3	のいですよ！ を 120
4	レジ
5	お金 200円
6	レシート、(おつり)
7	学校
8	おうち
9	おはあさん できました

報告を受け、生徒に見せながらサインを入れ、感謝の言葉をかける。

＜第3段階買い物メモ裏面＞



*その他にも、第1・2段階買い物メモ、第1・2段階チェックシート、第2段階レシート、第3段階チラシ（コンビニエンスストアで取り扱っている商品を掲載）などを作成しています。また第1・2段階では、店舗の雰囲気が出るような看板も作成、設置しています。

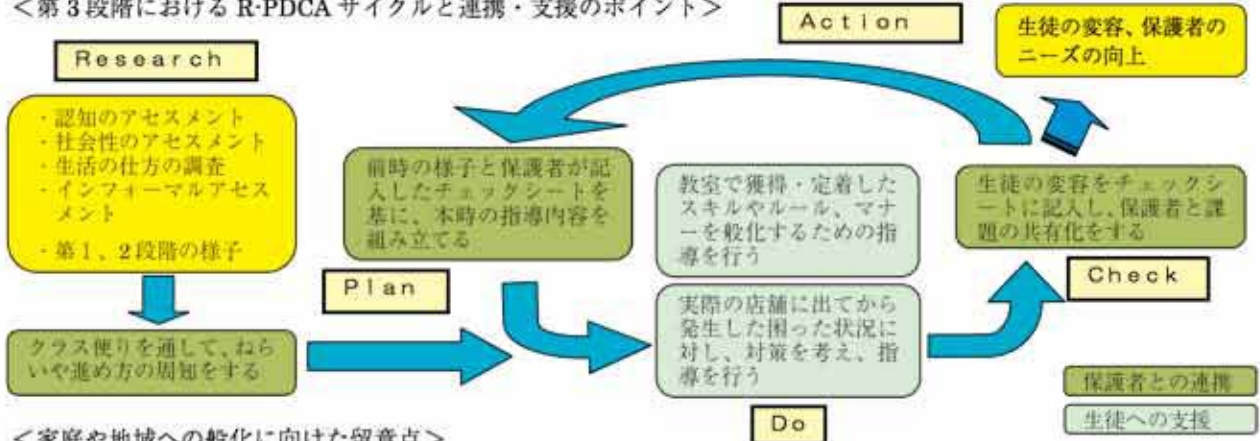
＜第3段階チェックシート＞

中1 社会性の学習 買い物学習 チェックシート

項目	内容	評価
1	商品名、数量、金額を正しく記入したか	
2	レジで支払った金額を正しく記入したか	
3	レシートを正しく記入したか	
4	お金の残額を正しく記入したか	
5	店舗の雰囲気や商品の種類を正しく記入したか	
6	商品の写真が貼られているか	
7	店舗の名前や住所を正しく記入したか	
8	お金のやり取りの様子を正しく記入したか	
9	レシートの金額とお金の残額が一致しているか	
10	レシートの金額と商品名が一致しているか	
11	レシートの金額と商品名が一致しているか	
12	レシートの金額と商品名が一致しているか	
13	レシートの金額と商品名が一致しているか	
14	レシートの金額と商品名が一致しているか	
15	レシートの金額と商品名が一致しているか	
16	レシートの金額と商品名が一致しているか	
17	レシートの金額と商品名が一致しているか	
18	レシートの金額と商品名が一致しているか	
19	レシートの金額と商品名が一致しているか	
20	レシートの金額と商品名が一致しているか	

白の部分は保護者、グレーの部分は教師がそれぞれ記入し、評価を共有化する。細かい変化は備考欄に書き込む。

＜第3段階における R-PDCA サイクルと連携・支援のポイント＞



＜家庭や地域への般化に向けた留意点＞

自閉症の生徒の中には、障害ゆえワーキングメモリー（実行するための記憶）の弱さがある生徒もあり、その部分を補うツールが必要なことがあります。本題材では「買い物メモ」を使用し、書かれた手順、商品、個数、金額に従って買い物を進めれば、円滑な行動ができるというように指導をしました。このような実際の店舗で利用できるツールを使用することで、教室で獲得・定着したやり取りの力を教室外の場所で発揮できるようになると思います。

また、本学習の般化には保護者との連携が不可欠です。生活調査の実施し、課題や学習の意図とねらい、チェック表等の共有化、進め方の共通理解、意見交換などを行い、保護者に課題意識をもってもらい、協力して進められるようにしました。保護者が協力することに負担を感じないよう、様子をうかがいながら進めていく配慮も必要でした。

毎時の買い物の評価を生徒が理解できるように、「買い物メモ」にスタンプ又はサインを入れる欄を設けています。言葉や表情で感謝の気持ちを伝えると同時に、目で見えて分かる形で伝えるようにします。また、買った物は当日飲食または使用をし、買い物の意味や機能の理解が進むようにしました。

保護者から「ありがとう」と言われること、家族で飲食し「おいしいね」と言ってもらえることは、自閉症の生徒にとって大きな喜びがあります。家族の中で役割を担い、家族の期待に応じて行動する、そういう成長が本クラスでは多数見られました。そのように変容する子どもの姿によって、保護者の意識が変化し、「どうやったら買い物ができるかな」「この方法なら一人で支えそう」などと家族が考えてくれることこそ、般化の第一歩だと思います。

また、学校近くの店舗の協力も必要不可欠でした。生徒の課題に具体的にアプローチするためには、実際の店舗での系統的・継続的な学習が必要です。店舗とパートナーシップを築き、生徒が安心して学習ができるよう、指導者は説明を行いたいです。

家庭や地域で生徒が活動を広げていけるよう、その場所に応じたソーシャルスキルが定着し、般化していけるよう、中学部での社会性の学習では取り組んでいくとよいと考えます。

2 中学部第三学年「社会性の学習」の指導案例

中学部第三学年 「社会性の学習指導案」

1 題材名

①個別学習 「ルールを守ってお願いします」

- ・ やり取りの文章を活用して、正しい行動を理解する。
- ・ 手順書を見て正しい行動ができるようにする。

②グループ学習 「ルールを学んで、楽しい修学旅行！～ 修学旅行を期待して～」

- ・ 外出時の社会的なルール・マナーを知る。
- ・ 身近なルールから学習して、実践を通して行動を身に付ける。
- ・ ルールの指示を受けて理解し、ルールや指示書を確認しながら行動する。
- ・ ルールを守る経験を積み、人からの評価や楽しいことを期待して自ら行動する。

2 学級の実態と題材設定の理由

<学級・活動グループの実態>

本学年は自閉症学級が2学級あり、11名の生徒をグループ編成して社会性の学習を行っている。本授業では、そのうち3名の生徒を対象とした学習である。

本単元における個々の実態については、「3生徒の実態と目標」で詳細を記載するが、いずれの生徒も自閉症の行動特性を強くもち、一人一人の認知能力や機能レベルから考えれば解決可能な課題であっても、社会的状況の中では、自閉症の障害であるがゆえの困難がたびたび生じているというのが現状である。今後、本人たちが生活していく上で直面するであろう困り感を見越して、特性を強みとして手立てを組み、取り巻く環境も含めた本人へのアプローチをしたい。「社会性の学習」で取り組み獲得した学習を実際の場面でも活用し、力を発揮することができるように般化させ、応用・発展させて今後の社会生活に広がりをもたせられるようにしたい。

<実施アセスメント>

TTAP・太田ステージ・自閉症教育の7つのキーポイントを行った。また、インフォーマルなアセスメントとして家庭生活で困っていることを保護者から聞き取る形の実態調査を行った。

<題材設定の理由>

本授業では、前半が個別学習・後半がグループ学習による指導形態で授業を行う。前半の個別学習では、本時は生徒Cを重点的に取り組むこととし、対象生徒Cの現在直面している困難を学習課題として設定した。実態調査や学校生活場面での観察から、気になる人に触る行動が見られたり、許可を得ずに勝手に人の物を使ったり、友達が使っているものを無理やり奪って使うという行動が見られる。そこで、“勝手にさわるのではなく、握手を求める”“許可を得てから物を使う”ことをやり取りの文章を使って取り組んだ。後半のグループ学習においては、生活上のルールを学ぶ学習とした。生活の中で直面してきた個々の「現在の生活上の困難」に焦点を合わせる。修学旅行は、対象の生徒が楽しみにしている活動であり、年齢に応じた社会生活の拡充を図ることができる学習でもある。また、地域生活での自然な社会的環境であり、そこで生徒が直面する「解決が求められる状況」を把握し、評価やフィードバックをさせやすい場面でもある。本単元で採り上げた内容を活用し、実際の環境で般化・定着を図る一つの場面として関連させて指導していく。修学旅行に焦点を合わせた課題設定とし、さらに生活単元学習で行っている買い物学習との関連を図りながら行うこととした。

<中学部の社会性の学習の視点>

中学部の社会性の学習では生活への般化の視点を中心とした指導がねらいとなり将来を見通した支援が必要である。つまり、卒業後の生活や社会参加を念頭に置いた課題設定が中心となってくる。また、中学部の社会性の学習では、より生活に生かしていく視点が必要となるため、社会性の学習という1コマの授業の中で完結できず、他の教科や学校外での活動、家庭との連携がより重要になる。他教科や生活の中での般化の計画を事前に立てた上での指導が大切である。

解説

<学習グループの編成について>

対象とする生徒は、中学部3年D・E組の自閉症学級に在籍する生徒3名（生徒A・生徒B・生徒C 個別学習対象生徒）であり、3名とも知的障害を伴う自閉症圏であると診断されています。中学部3年生は、自閉症学級が2学級あり、その中の11名の生徒を実態別に四つのグループに分けています。グループ編成の基準として自閉症教育の7つのキーポイントを活用しています。自閉症教育の7つのキーポイントの平均点が近い生徒を同じグループに編成することで、ねらいが設定しやすくなります。本授業では、そのうちの4グループに所属する3名が対象です。

1グループ	2.0～2.2点	平均点が2点前半で一方のやりとりが多いため個別学習を中心に行う。
2グループ	2.0～2.5点	平均点が2点後半にかかっているため構造化された環境の中でのグループ学習を行う。
3グループ	2.5～3.5点	構造化された環境の学習を中心としながら流動的な経験もねらいとした学習を行う。
4グループ	3.5～4.0点	流動的な環境の中でモデル利用型学習を中心としてグループ学習を行う。

<指導形態について>

個別学習とグループ学習を行っています。社会性の学習の課題設定として、生活上の困難を改善克服することが目的であるので、基本的に社会性の課題は個々に応じて違います。生徒個人が直面している困難（例えば、男女のトイレマークの違いが分からない・スケジュール変更に応じられない 等）に対して課題解決の方法として個別学習でアプローチをしていきます。また、直面している困難が複数の生徒で共通している場合（例えば、電車に乗る際のルールが分からない・役割分担の意味が理解できない 等）は、グループ学習として取り組んでいきます。よって、指導内容に応じて指導形態を決定していくことになります。あくまで、指導形態ありきの学習にならないようにします。

<個別学習の進め方>

1教室の中で、6名の生徒（本授業では2グループと4グループ）が教員2名体制で学習を行っています。前半に個別課題、後半にグループに分かれた学習という形をとっています。前半の個別学習については、同じ教室内で学習している6名の生徒を毎回一人ずつローテーションで一人の教師と一緒に取り出し課題を行っています。ここでは、個人ごとの困難に対する学習を行います。取り出し課題を行わない残りの生徒5名は、ワークシステムを使って一人で活動することをねらいとしています。その中で、教師に報告すること・確認後に修正に応じることも大事に取り組んでいます。

<生活単元学習との違い>

本授業では、修学旅行という行事を題材として設定しました。生活単元学習では、修学旅行への期待感を高めたり、修学旅行の行程を理解するなどがねらいとして考えられます。今回の社会性の学習においては、修学旅行そのものの理解がねらいではなく、修学旅行中に想定される生活上のルールやマナーの理解をねらいとしています。あくまで、修学旅行はルールやマナーを学習するための一つの機会として捉えて社会性の学習の課題としました。よって、修学旅行が終わっても、今回学習したルールを買い物学習や他の行事に切り口を変えて継続して取り組み、場面が違ってもしっかりルールは同じであることを理解できるように意図的に様々な場面設定をして取り組んでいます。

<般化計画>

中学部段階では、特に般化の学習が重要になってくると言えます。中学部までは自閉症の教育課程がありますが、高等部からはありません。したがって、より多様な環境の中での学習を行うことになります。中学部では、その前段階として、授業という切り取られた時間での取り組みだけでなく、より実生活に近い状態、自然な状況の中で学習成果を発揮できるように取り組んでいくことが大変重要になります。そのためには、知識・技能・遂行（般化）の取得を目指して取り組んでいきます。自閉症のお子さんには、これらの知識・技能・遂行（般化）を分けて教えていくことが必要であり、そのためにも事前に般化の計画を立てることが大切です。

	学習内容	般化計画
個別学習の般化計画（例、生徒C）	・挨拶をして握手をする。	日常生活を中心に様々な場面で取り組む。
	・許可を得て物を借りる。	日常生活を中心に様々な場面で取り組む。
グループ学習の般化計画	・ルールの理解	生活単元学習の買い物で同じルールブックを活用
	・評価の理解	作業・係活動等でトークンを使用

3 生徒の実態と目標

※ 緑は個別学習でねらう内容

・ 灰色はグループ学習でねらう内容

		生徒A			生徒B			生徒C					
太田ステージ		Stage—Ⅲ—2			Stage—Ⅲ—2			Stage—Ⅲ—2					
自閉症教育の7つのキポイント	学習態勢	3	4	4	学習態勢	3	4	3	学習態勢	3	1	4	
	指示理解	強化システムの理解	表出性のコミュニケーション	模倣	指示理解	強化システムの理解	表出性のコミュニケーション	模倣	指示理解	強化システムの理解	表出性のコミュニケーション	模倣	
	セルフマネジメント	5	3	4	セルフマネジメント	3	2	5	セルフマネジメント	4	4	5	
	注視物の選択	4	合計	平均点	注視物の選択	4	合計	平均点	注視物の選択	4	合計	平均点	
		4	27	3.8	4	24	3.4	4	25	3.5			
T A P	職業スキル	直家学	7	2	3	直家学	6	3	3	直家学	8	3	1
	職業行動	直家学	4	7	1	直家学	4	7	3	直家学	7	5	
		直家学	5	6	1	直家学	3	8	1	直家学	1	7	4
	自立機能	直家学	5	6	1	直家学	4	5	3	直家学	7	5	
		直家学	2	6	4	直家学	5	5	2	直家学	4	5	3
	余暇スキル	直家学	5	4	1	直家学	5	3	4	直家学	7	4	1
		直家学	7	5		直家学	4	7	1	直家学	3	8	1
機能的コミュニケーション	直家学	3	5	4	直家学	3	3	6	直家学	6	4	2	
	直家学	4	7	1	直家学	4	6	1	直家学	4	8		
対人行動	直家学	4	7	1	直家学	3	5	4	直家学	4	5	1	
	直家学	1	9	2	直家学	9	3		直家学	11	1		
実態	①コミュニケーション ②行動特性 ③一般化の特性	①視覚的な提示による質問などは、選択したり応答したりすることができる。単語や2語文などで表出できる。質問などは分からないとエコラリアになりやすい。 ②バスの中でトイレに行きたくなると、その場で下着を脱いでしてしまうことがある。泣いている人を指差して「泣いちゃった!」と大声で騒ぐ。 ③事前に具体的なルールや行動を提示することで、その場面で正しく行動できる。			①情報が多かったり、理解できなかったりすると、反応が見られないことがある。単語や2語文などで表出できる。自分の世界での独り言を話し続けることが多い。 ②行動がかなりゆっくりで、周囲に合わせて行動することが難しい。急に走り出し、「攻撃!」と言って、窓ガラスにぶつかることがある。 ③視覚的な提示や、事前にルールを確認し理解すると、進んで具体的な行動がとれる。			①視覚的な提示によるものは受け入れやすいが、意にそぐわないと物を投げる、壊す。一方的なことが多い。質問が分からなかったりすると、エコラリアになる。 ②気になる人の体(腕)を突然触ってしまうことがある。状況の判断が難しく、大声で叫んだり、急に走り出したりしてしまうことがある。 ③事前にルールを確認することで、場面が変わっても対応できることが多い。					
題材目標	●評価を期待して行動する。 ●ルール・マナーシートを自ら確認してキーワードを書く。 ●外出時の正しい行動をイラストを見て選択する。	●評価を期待して行動する。 ●ワークシートのキーワードを覚え、質問に答える。 ●外出時の正しい行動を選択肢から選んで音読する。			●評価を振り返り行動する。 ●ルール・マナーシートを読んで行動する。 ●外出時の正しい行動をルールブックで確認する。								

解説

<アセスメントの実施と活用について>

フォーマルアセスメントとして、太田ステージ・自閉症教育の7つのキーポイント・TTAP を行いました。その中で特に自閉症教育の7つのキーポイントを中心に課題設定を行いました。生徒3名の得点を比較すると、共通して低い得点になっている項目として【セルフマネジメント】と【強化システムの理解】が挙げられました。よって、共通した課題としてこの二つの項目をねらいとし、グループ学習の題材設定を行いました。また、個々に応じて課題となる得点の低い項目（例えば、生徒Cの【指示理解】【表出性のコミュニケーション】など）については、教師と一対一で行う個別学習で重点的にねらっていくこととしました。

自閉症教育の7つのキーポイント

自閉症の児童生徒が学ぶための基礎及び中核であるポイントをまとめ、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所で発表したものです。1000サンプルの自閉症児への指導を分析し、行動管理・コミュニケーション・模倣・認知から主体性を基盤に「学習態勢、指示理解、セルフマネジメント、強化システムの理解、表出性のコミュニケーション、模倣、注視物の選択」の7つに分類しています。これらは、自閉症児が自ら学ぶことが困難であるものです。これら7つの項目がチェックリスト形式になっており、○△×で評価し、7つの項目それぞれの得点を出します。得点の凹凸を見ることで、子供のアンバランスさを見ることができ、凹凸を少なくすることで学びやすくすることができます。

<実態調査（インフォーマルアセスメント）の詳細>

インフォーマルなアセスメントとして各家庭にアンケート形式で実態調査を行いました。項目としては、家庭内で困っていること・外出時に困っていること・こうなってほしいといった将来への希望を記入してもらいました。以下は、家庭内や外出時に困っていることです。

生徒A	生徒B	生徒C
<ul style="list-style-type: none">・自分のルールを通そうとする。変更や修正が難しく、大泣きしてしまうこともある。(グループ学習)・勝手なルートをつくって一人で行動してしまう。(グループ学習)・状況に関係なく突然大声を出す。・納得できないことは、繰り返し声を出して確認し続ける。	<ul style="list-style-type: none">・自分のルールを譲れないことがある。(グループ学習)・状況に関係なく話し続ける。・行動がゆっくりである。・公共のルールがわからず、適切な行動がとれない。(グループ学習)・突然何かを思い出して確認し続ける。	<ul style="list-style-type: none">・自分のルールがある。(グループ学習)・場面に関係なく突然走りだす。(グループ学習)・人に触ってしまう。(個別学習)・自分の気になる物や好きな物を許可を得ずに取ってしまう。(個別学習)・自分の嫌なことや都合の悪い物を隠したり持ってこなかったりする。

<アセスメントからの課題設定の方法（個別学習とグループ学習）>

「生活する上での困難さ」が課題となります。その課題を解決するための方法を考え、ねらいを設定します。社会性の学習には教育と支援の側面があり、相互を併せて取り組んでいく必要があります。生活する上での困難さは、現在直面している困難と、近い将来直面することが予測できる困難に分けることができます。この生活する上での困難さを見極め、さらに優先順位をつけていくために、アセスメントは欠かすことができません。

本授業では、フォーマルなアセスメントとインフォーマルなアセスメントを実施し、実態把握を行って社会性の学習の課題を設定しました。今回個別学習について重点的に取り上げる生徒Cは、実態調査（インフォーマルアセスメント）から、現在直面している困難として、人に触ってしまうこと・勝手に物を取ってしまうことをねらいとした課題を設定しています。上記で説明した自閉症教育の7つのキーポイントの重点項目のねらいも含まれます。これらは、生徒C個人の現在直面している課題であるため、この課題の解決方法は個別学習で行います。

また、グループ学習では3人に共通している課題として、近い将来直面することが予測できる困難としてアセスメントより、ルールの理解と実行が挙げられました。今後、外出の機会が増えたり高等部での実習や一人通学等、卒業後の経済活動（お給料をもらって外出したり買い物する等）を想定した時に、外出先でのルールを守ることは重要な課題であると考えます。また、自閉症教育の7つのキーポイントで共通した項目のねらいも含まれます。よって、3人に共通した課題として外出時のルールの理解をグループ学習で取り組むこととしました。

4 本時の展開 (2/6時間目)

<本時のねらい>

個別学習	・正しい行動を理解する。	グループ学習	・ルールを守る際のキーワードが分かる
	・提示されたルールに沿って活動する。		・ルールブックを活用して正しい行動を確認できる。

<本時の展開>

時間	学習内容	ねらい	支援方法	KP
個別学習(生徒C)				
13:15	始まりの挨拶 本時の確認	・今日のめあてが分かる。 ・学習内容が分かる。	・めあてとワークシートを提示し、注目するようにする。	⑦
13:19	「あくしゅをしてください」 (やり取りの文章Ⅰ)	・音読して正しいルールを理解する。	・ルールを教員と一緒に読む。キーワードとなる部分は強調する。	②
		・文章を読んで○×をつけることで正しい行動が分かる。	・教員が質問を読み、生徒は○×で答えてワークシートに記入する。	③
		・二の腕を触ることなく握手をする。	・自身で記入したワークシートの手順を音読して確認しながら、相手に「握手をしてください」と伝える。	⑤
13:25	「貸してください」 (やり取りの文章Ⅱ)	・音読して正しいルールを理解する。	・ルールを教員と一緒に読む。キーワードとなる部分は強調する。	②
		・文章を読んで○×をつけることで正しい行動が分かる。	・教員が質問を読み、生徒は○×で答えてワークシートに記入する。	③
		・「貸してください」と伝えて物を貸る。	・自身で記入したワークシートの手順を音読して確認しながら、相手に「貸してください」と伝える。	⑤
グループ学習				
13:40	始まりの挨拶 本時の確認	・今日のめあてが分かる。 ・学習内容が分かる。	・ホワイトボードにめあてとスケジュールを提示する。	⑦
13:42	修学旅行の日程表を完成させる。	・1日分ずつを役割分担して、流れを記入する。	・修学旅行の行程表を見ながら書き写す。	⑦
13:50	修学旅行に係るルール	・正しい行動と間違った行動が分かる。	・正しい行動と間違った行動の写真を見て、○×を書くようにする。音読して確認する。	③
		・正しい行動のキーワードを文字で書く。	・文章の一部を穴埋め形式にし、キーワードが連想しやすいようにする。音読する。	⑦
		・正しい行動が分かり、評価をもらえることを期待する。	・写真の○×と記入したキーワードが合っているか、音読して確認する。正しい場合はスタンプを押す。	④
14:02	振り返り学習 終わりの挨拶	・学習したルールを正しく記憶する。	・学習したルールがランダムになった問題で、正しい行動のキーワードを記入する。	③
14:05		・分からない時にルールブックを見て確認する。	・学習したルールが書かれたルールブックを手掛かりにして、記入する。	③

※KP(自閉症教育の7つのキーポイント) ①学習態勢 ②指示理解 ③セルフマネジメント ④強化システムの理解
⑤表出性のコミュニケーション ⑥模倣 ⑦注視物の選択




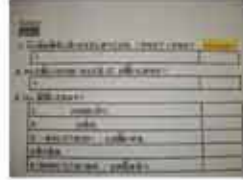

<授業の成果と今後期待される効果>

個別学習では、対人関係に関することとして人との関わり方について取り組んだ。対人意識として、人を勝手に触らないということは理解できていても、行動調整を行うことが難しかったが、知識と遂行を繰り返すことで行動場面でも調整できることができた。グループ学習では、修学旅行という生徒が期待感をもっている題材を材料にしたことで外出時のルールを理解し、実際場面でも正しく実行することができた。音読しながらルールを確認して実行することを繰り返したことで、「お店の中では…?」と教師が質問すると「歩く」と生徒が答えて行動調整ができる場面も見られるようになった。実際の修学旅行では、ルールブックを事前に提示することでルールを守れたり、教師の言葉かけとルールブックの提示で行動を修正できる部分があった。今後も、ツール(ルールブック)や大人の言葉を手掛かりに、自分の行動を修正したりコントロールする力を付けていくことを目指す。

解説

<授業内容の詳細> 行動調整をねらいとし、言葉と行動が一致することを目指します。キーワードを反復して音読させることで、実際場面でも教員の「レストランでは？」等の言葉のきっかけを聞いたリルールブックの提示によってキーワードを思い出して行動できるようにします。

学習内容の詳細・支援方法

個別学習 (生徒Cの取組について記載する)	
<p>①スケジュールとめあての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別学習で取り組む内容を確認します。スケジュール確認は、このあと使うワークシートを見せて説明します。 ・今日のめあてをホワイトボードに書いて提示します。 	
<p>②「あくしゅをしてください」 (ワークシート1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを音読します。人の二の腕を触ってはいけない理由(ダメな理由)と、二の腕を触る代わりに握手を求めること(正しい行動)を伝えることができるような文章にします。 <p><知識></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを記入します。確認する際は、音読するようにします。<知識> ・自分で書いたワークシートを見ながら実際に、いつも二の腕を触ってしまう人のところへ行き、握手をするようにします。<技能・遂行> 	 
<p>③「貸してください」 (ワークシート2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを確認します。勝手に人の物を持って行ってはいけない理由(ダメな理由)と「貸してください」とお願いすること(正しい行動)を伝えることができるような文章にします。この時も音読することがポイントです。<知識> ・ワークシートを記入します。確認の際は、音読をします。<知識> ・書いたワークシートを見ながら、個別学習が終わって休憩する際に使う御褒美グッズ(AKBのビデオ)をSTに貸りに行きます。<技能・遂行> 	 
グループ学習	
<p>①予定とめあての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに今日のめあてを書いて提示します。 ・ホワイトボードの左端に今日の予定をカードで貼って提示します。 	
<p>②修学旅行の行程を書く</p>	
<p>③修学旅行中のルールを確認する(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの写真を見て、正しい行動とダメな行動を考えて写真の上に○×を書きます。 ・ルールとなるキーワードを記入します。 ・音読してから、スタンプ(評価)をもらいます。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>四つのルール</p> <p>①電車やバスでは静かにします。</p> <p>②レストランでは歩きます。</p> <p>③トイレはどっち？</p> </div> 
<p>④再確認と振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四つのルールのキーワードを書きます。分からなくなったら、手元にあるルールブックを見て確認しながら記入します。 ・音読をして確認します。できたらスタンプ(評価)をもらいます。 	